

彦根市 河村 純一

滋賀医大に古医書寄附

寄附をきめて父祖の著書のさまさまの

堆かき中に坐り安らぐ

手にとりて古書をめくれば紙魚一つ

現はれてすぐ見えずなりにき

堆かき古書の山より匂ひ立つ

黴くさき中に坐りてゐたり

納戸より古書を縁先に運びゐる

娘感傷の言を言ふなし

文字の上に朱点打ちしは何時の祖か

想いつづけず本を閉ぢたり

手広かりし発行書肆の日本橋

須原屋茂兵衛の後は如何にや

積み終えて古書の埃りにはたらきし

図書館員ら手を洗ひをり

わが家の古書を積みたるトラックが

角曲るまで見送りてゐき

1978(昭和 53)年に河村文庫資料をご寄贈された河村純一先生は「滋賀県医師協同組合ニュース」8 巻 65 号 (1978 年 12 月 25 日) にその思いを短歌に詠まれました。「滋賀医科大学附属図書館報 Library News」No. 4 (1980[昭和 55]年 3 月) には河村先生と滋賀県医師協同組合の許可を得て、その短歌を転載しています。今回、河村さだ様と滋賀県医師協同組合の許可を得ましたので、河村先生への感謝の意を込めて、短歌を再掲します。